

## 第2回日本消化管 VR(Virtual Reality)学会に参加して

小樽掖済会病院 平野雄士

2019年1月19日土曜日、第2回日本消化管 VR 学会に参加しました。聞きなれない学会と思いますが、医師を中心とした大腸 CT の研究会「消化管 CT 研究会」と「消化管 Virtual Endoscopy 研究会」がひとつになり、昨年より開かれている学会です。いつも報告している「消化管 CT 技術研究会」は技師を中心とした技術面主体の研究会なのでお間違えないようお願いします。(ですが、同じ大腸 CT ネタなので、間違ったことに気が付かないかもしれません。)

一般演題、シンポジウム、2つの講演が組まれていました。特に症例報告についてのディスカッションが素晴らしく、国内屈指の放射線科医、内視鏡医のコメントがあり、詳しく、時間も充分にとって議論されているので、ものすごく勉強になります。単純にスクリーニングレベルではない領域まで踏み込んだ内容になっています。

今回私はシンポジストとして参加させていただきました。「大腸CTの普及におけるチーム医療の重要性」というタイトルでしたので、放射線科医、内視鏡医、診療放射線技師に加えて看護師、事務員を含め患者さんを取り巻く専門家の知識と技術を高く持ち、融合することが重要であると、診療放射線技師の役割とともにお話ししました。内視鏡医、放射線科医もそれぞれの立場からお話しがありました。前処置薬に対しても新しいアプローチも始まっているようです。

特別講演1では国立がんセンター中央病院の三宅 基隆先生から英国医療機関を訪問しCTCを学んだ時のお話や、RSNAでMagna Cum Laudeの受賞したときの内容など報告がありました。立派な研究をしていることを改めて感心しました。

特別講演2では秋田赤十字病院の原田 英嗣先生から「消化管 VR 診断法と病理所見の対比」についてのお話があり、病理画像とCTC画像の詳細な対比により、CTCの描出限界とともにこれからの可能性を示していただきました。

こんな調子で朝から晩まで、あっという間に一日が過ぎていきました。なんだか今年もこんな毎日かな？と思います。

この学会の理事長は札幌医大の山野 泰穂先生が務めているので、北海道としてもとても縁の深い学会です。そのうち札幌でも開催するようなので、その際は是非ご参加ください。

あ、それより先の日程で、大事なお知らせがあります。

2019年6月1日(土)第18回消化管CT技術研究会を札幌創成スクエアで行います。前日、2019年5月31日(金)にも同じ場所で北海道消化管CT研究会を開催いたします。時間の許す方はこれを機会に消化管CTの世界に触れてみてください。たくさんの参加をお待ちしております。



特定非営利活動法人 (申請予定)

**日本消化管CT技術学会 学術集会** 

札幌市民交流プラザ クリエイティブスタジオ (札幌市)

**2019.6.1 Sat 10:30-18:00**

**大会長：平野雄士** (小樽掖済会病院)

一般演題募集：2019年1月1日(元旦)～3月31日(日)

事前参加登録：2019年3月1日(金)～5月26日(日)

主催：日本消化管CT技術学会

後援：一般社団法人北海道放射線技師会

<http://gict-tec.com>

 <http://www.facebook.com/ctcolonography> 